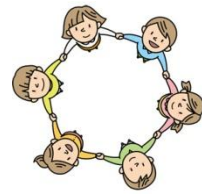


心の輪32R



『ジョイス』という資料を通して、

「誠実な生き方」について考えました！



『勇気ある行動』とは、みんなから批判されても、自分が正しいと思ったことをできるということだと思ふ。まず、大リーグの審判をするというだけで、相当なプレッシャーがかかると思ふ。そして、大誤審をしたのに、次の試合にも出たのは、とてもすごいと思ふ。

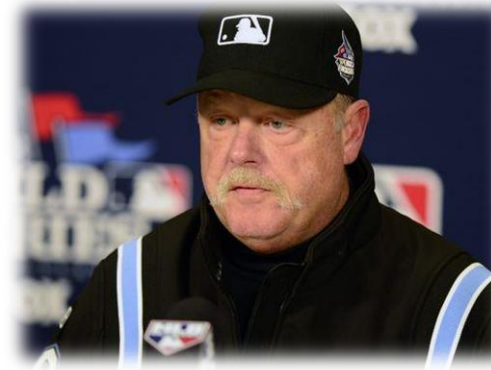
自分にとって『勇気ある行動』とは、自分がやらなければいけないことが、どんなに嫌なことでも、人のためになろうと動くことだと思ふ。勇気ある行動は、何でも積極的にやることとは違うと思ふ。

『勇気ある行動』とは、自分の恥じらいを捨て、一つのことに集中して、最後までやり遂げることだと思ふ。ジョイスのように、失敗したけれど恐れずに、一つの試合に向き合っ、とても格好良い人だと思ふ。

人は生きてる限り、過ちを犯さないということはないだろう。しかし、その中でその過ちに自ら気づき、反省して、それを次にどう生かすかで、人生は大きく変わると私は思ふ。間違っ、ことに気づくのは、とてもすごいことだと思ふが、それを反省して謝罪をすることは、もっと勇気のいることだと思ふ。だからジョイスはすごい。自分もそんな風になりたい。

ガララーガが謝罪に来たジョイスに会った後、「おそらく彼の方が僕よりも辛い思いをしている。誰にだって間違いはある。シャワーも浴びずに謝罪に来た彼を称えるべきだろう」と報道陣に言った時、自分はハッとさせられた。過ちをしてしまったのは、もう過去のことであり、いくら批判しても、もう完全試合ではないと納得させられた。

もう一回同じ行動や間違いをしないように、自分で考えて、考えるだけではなく、それを次にどうするのかを最後まで考えないといけないと思ふ。自分の言っ、こと、の言葉の責任とか、とても大きいものだと思ふ。



ジョイスはガララーガの完全試合を潰してしまったけれど、彼の勇気と、誤ったジャッジしたとしても欠場せずに観客の前に姿を現し、球審として責務を全うできたことは、すごいと思ふ。自分という生き方を見つけるべきだと思ふ。

世間から非難されながらも、自分を信じ、自分の何が悪く、どのようにすれば良いかを考えることができたジョイスはすごいなと思ふ。もし自分だったら、翌日の試合の審判を外れていました。この話を読んで、もっと自分を信じ、もし失敗しても最後までやるべきことをやりきりたいと思ふ。

ジョイスみたいに、失敗をしても逃げずに、その責務を全うし、そこで恩返しや申し訳ない気持ちを出すのは格好良いし、自分も失敗したら、そうできるようにしたいと思ふ。

もし、自分が失敗をしてしまった時、絶対に逃げずに、責任を持とうと思ふ。「失敗してしまったなら、次はどうすべきか」「どうして失敗をしてしまったのか」を考えていこうと思ふ。自分が後悔しない人生にしていきたいです。